



ウドンタニ競馬場のスタンド内部



チェンマイ競馬場のスタンド風景



パドックがわりに本馬場を歩く
チェンマイの出走馬

世界旅打ち気分

●第32回・タイの地方競馬その1

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
#グリーンファーム会報#2021年2月号
でご覧いただけます

タイの競馬はこの連載が始まりた初期の2018年に一度扱った。当時は、バンコク2場、地方4場という体制で、バンコクのうちロイヤルバンコクスピードクラブを紹介した。

その後も二〇〇二年の競馬場での貸借権を更新できず、休止であるがなし崩しに廃止という危機に瀕している。これについては二〇一九年の秋に廃止場3場について触れた原稿で説明した。

それ以外に地方の競馬がある
わけだが、今回はその中から2場
を紹介しよう。

まずはチエンマイ競馬場。チエン
マイという土地そのものは皆さん
も聞いたことがあると思つ。バーン
クから飛行機で1時間半弱、高速
バスだと10時間ほど。鉄道も夜行
列車が出ていて、12時間ほどで着
く。

バスで10時間はかなりハードだ
が、タイではこのくらいの長距離も
バスで移動するのが普通。ただ日
本人にとって悪路も込みの10時間
はかなりしんどいので、飛行機を
使つたほうが無難だ。列車のほう

式である単複では賭けが成り立たないため(タイは15年ほど前まで単複だけだった)、5頭立て以下は馬単、6、7頭立ての時は馬複という制度になっていた。それも馬単1～2は1、1～3は2……というように対照表を見て1～21の数字に置き換え、単勝のシステムを使って投票するのである。

もうひとつ紹介するのがウドンタの競馬場。イサーーと呼ばれるタイ北東部にある。バンコクからは飛行機で1時間強。バスだと8時間ほど。チエノマイもそうだが、バスを選ぶときは変にケチらず、高いバスの高い席を選んだほうがよい。舗装が綺麗でない道をおんぼらベイ、進んで本格的マジ

ーのウドンタニには、グリーンチヤンネルのロケで行った。ディレクター兼カメラマンと私の2人だけ

コクの水商売に出稼ぎに出る女性
が多い。そこで昵懇の間柄になつた
ファン(白人)が、なんらかの形で

他の地方競馬場と違つたのは、英語の競馬新聞があつたことだ（バンコクではたまに見る）。実際、白人客の姿もあつた。

馬券を買うお父さん向きの店だけではなく、付いてきた家族向けの店も出ているだろう。

飲食屋台が入っていて、なにを食べるか選ぶ楽しみもある。食べ物屋は分かるのだが、ジーンズを売る衣料品店なども出しているのは謎だった。どうも競馬場は単に競馬を見るとか馬券を買うだけでなく、休みの日に家族そろつ

である。行きは、ホテル近くにいたトウクトウクに「競馬場まで行ってくれ」と言つたらあつさり通じたのでそこで現地に到着した。これが後でピンチを呼ぶのだが……。

競馬場とのものはなかなかよかつた。レースのレベルが高いとは言えないが、チエントマイより入場人員も多いしスタンンドにもぎわっている。スタンド内部は馬券売り景気のほか各重

でホテル差し回しの車を利用。事情を話して競馬場まで移動した。競馬場はあつさり見つかたが、開催している気配がない。1頭だけ、厩務員さんに連れられて草を食べている馬がいる。

私がチエノマイの競馬場に行つたときも、この点が生きた。

通常チエノマイの競馬開催は土曜日。そこで金曜夜にチエノマイ入りし、ナイトバザールに近いメリディアンに宿泊した。いまはどうか分からぬが、当時のチエノマイはメータータクシーが無かつたし、競馬場があるまでは限らぬので

は寝台なので、海外での列車旅を楽しむといつ手はある。最近はネット上に情報や写真も出ているので、1等2等のどちらを選ぶかはそれを見て判断したい。

タイは物価が安いが、ホテルは特に安く感じる。シーズンなどによると、チエントマイだとかいう一流ホテルでも一泊一万円未満で泊まれる。そういうホテルでは英語が通じるし、車を手配するときも英語でもできる運転手をあてがっててくれる手で便利だ。

しかもどちら方向か分からぬ。
困った……どうどうで、2人だけ残っていた警備員さんが「どうしたの? (タイ語で)」。お互い言葉は通じないのだが、足が無いことは分かった様子。結局その2人が帰るバーイクの後ろに大通りまで乗せてもらい、さらに通りかかるソンテウ(乗合バス)の運転手に「ひとつぶ町の真ん中で下ろしてやつ」と言ってくれた(だぶん)。ただ皆さんはこうならないよう、帰りの足についても配慮していたみたい。

女性の実家かその近くに2人で住みだすことがある結果、ウドンタニにはフランスのゴミ集積場があるのだろう。その人たち向けに英語の競馬新聞を刷ればそれなりに売れる……のかと思う。あくまで推測だが。

さて、前述のピンチについてだが、帰りの足を失ったのである。最終レースが終わり、ディレクターが「ちよつとトイレ」と言って帰ってきたら、お客様も関係者も撤収が早く競馬場は無人。街中まで乗つていけるトウクトウクなどもいない。ウドンタニの競馬場は大通り

か6頭のレースがほとんど。5頭立てで2頭は大出遅れとか、上がりてくるときに、出走全馬が跛行しているところだ。一人もやせり。良くも悪くも……どうか主に悪い意味で、粗い競馬という印象だ。

もううと、「今日は仏教の暦の関係で開催が無い。振り替えで明日の日曜にある」とのこと。ホテルを延泊して翌日無事に観戦したのだが、通訳がわりの運転手がいなかつたら振り替え開催について聞き出すことはできなかつただろう。タイは仏教や王室がらみの日程変更が多い一方でネット上に開催情報が無いので、旅打ちは常にリスキーなのである。

やつとの思いで開催日にたどりついたチエンマイ競馬場は、いかにもローカル競馬場という趣き。入場料も20バーツ(約70円)とバンコク(50~100バーツ)より安い。入場券売り場のところに新聞売りのおばちゃんがいるが、競馬新聞はタイ語のみである。

競馬のレベルは正直などこないとい。私が行った日だけ(こうともないはず)が出走頭数も頭